

平戸

令和5年1月31日
横浜市立平戸小学校
〒244-0803
横浜市戸塚区平戸町542番地
TEL 045-821-2329
FAX 045-826-2005



学校HP、
校長室だよりが更
新されています。
ぜひご覧ください。

副校長 平島 幸江



「実践力」を育てる

暮冬の候、冬は暦の上では最終盤です。職員玄関近くの花壇では、スイセンの花が清楚に咲いていますし、学校近くの緑地では、太陽が昇り温かくなってくると、いつもの小鳥のさえずりが聞こえてきます。平戸小学校にも、少しずつ春の足音が聞こえています。

学校では、春の訪れとともに、制限されていたことが少しずつ解かれつつあり、コロナ後や、新年度（令和5年度）に向けた学校運営の振り返りと見直しに一層の注意を払って取り組んでいます。

まず、児童の登校時間の見直しを行いました。（分散型で密を避けて登校していた登校時間を、地区ごとにほぼ同時間に登校するよう指導しました）1月から始めましたが、地域や保護者の方から「良い取り組みですね」とおおむね高評価をいただいています。また、1月の給食再開時から、給食時の黙食指導も少しずつ解除となりました。教職員は、これまでがまんしてきた分おしゃべりに花が咲いてしまうのでは、と少々心配していましたが、児童はマナーを守り落ち着いた雰囲気です。まだまだ感染症対策は続いていくと予想されますが、コロナ禍での学校が乗り越えてきた道を振り返りながら、成果と課題を見つめ、全てをコロナ前に戻すのではなく見直すべきことは見直しながら、コロナ後の教育活動の新たな構築を目指していきます。

さて、この成果として感じていることは、校舎内の様々な場所で、1人1台のタブレットを使い、学習に取り組む児童の姿が、日常風景になったということです。振り返れば、本校で1人1台を児童へ配付したのは、昨年度の9月の分散登校時のことでした。あれから1年数か月でこれほどまでに活用できるようになるとは、この時は想像もできませんでした。教職員も、今では出勤するとロイロノートで連絡確認、授業中や放課後は児童の学習の様子を確認、教材準備。教職員間での情報共有や会議などでも使用しています。このスピードでいくと、来年度の今頃は、どこまで進化しているのでしょうか。楽しみです。

ただ、忘れてはいけないと肝に銘じているのは、小学生のこの時期は「本物にふれる」「五感を使って感じる」「自分で作って直し、また作り変える経験を積む」「自分の思いを人に伝える」「人と意見や感想を交換する」などという実体験が、成長にとって大変重要だということです。ICT機器の利点も活用しつつ、実体験から生じた問題を自らの力で解決し乗り越える実践力のある児童を育てていきたいと考えます。

